

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-169	22-081	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名 (原題/訳)		
Examining the relationship between alcohol consumption, psychological distress and COVID-19 related circumstances: An Australian longitudinal study in the first year of the pandemic アルコール摂取、心理的苦痛と COVID-19 に関連する状況との関係： パンデミック初年度のオーストラリア縦断研究		
執筆者		
Mojica-Perez Y, Livingston M, Pennay A, Callinan S.		
掲載誌		
Addict Behav. 2022 Dec;135:107439. doi: 10.1016/j.addbeh.2022.107439.		
キーワード	PMID	
アルコール摂取、心理的苦痛、COVID-19 関連状況	35914417	
要旨		
目的： オーストラリアにおける最初 8 ヶ月間のパンデミック期における、アルコール摂取、心理的苦痛と COVID-19 に関連する状況（自宅待機、在宅勤務、家庭学習、一時待機）の関係を明らかにする。		
方法： 最初 8 ヶ月間のパンデミック期に 6 回の調査を行った。参加者は 18 歳以上オーストラリア在住の 777 人で、少なくとも毎月アルコールを摂取していた。第 1 波で人口統計学的データが得られた。アルコール消費量、心理的苦痛 (Kessler 10)、COVID-19 に関連する状況（ロックダウン、在宅勤務、家庭教育、一時待機）を各回の調査で得た。		
結果： 固定効果二変量回帰分析の結果、心理的苦痛が高い状態、在宅勤務中、家庭教育中は、非該当と比較して多くのアルコール消費を認めた。固定効果パネル多変量回帰分析では、高い心理的苦痛と家庭教育中がアルコール消費増加と関連する事が明らかとなった。		
結論： COVID-19 パンデミック期における典型的な飲酒傾向は、集団によって飲酒量増加と減少を示している。オーストラリアでは、心理的苦痛と COVID-19 の制限による特定の影響を経験した人ほど飲酒量が増加しやすいことを示した。		